

		A. 現状の問題点	B. 当団体が考える推奨レベル	C. 当団体が考える理想レベル
1	耐震等級 ※会社のHPで判断 ※会社に問い合わせ	<ul style="list-style-type: none"> HPを見たり、問い合わせても、耐震性能が不明 HPを見たり、問い合わせても、構造計算方法が不明 <p>※構造計算法：性能表示計算か構造計算（許容応力度計算）のどちらか</p>	耐震等級3（以下のいずれか、積雪荷重考慮時は2も可） 1.品確法に基づく性能表示計算による耐震等級3：耐震性高 2.許容応力度計算による耐震等級3：耐震性さらに高	（以下のいずれか。どちらもBを満たした上で追加を前提とする） 1.耐震等級3 + 制振ダンパー（壁倍率ありタイプ）：既存住宅向き 2.耐震等級3 + 制振ダンパー（壁倍率なしタイプ）：新築向き
2	建物形状 ※平面図で判断	<ul style="list-style-type: none"> 凹形状のように複雑（建物角が8つ以上）、かつ構造計算なし 外周壁で斜めの部分あり、かつ構造計算なし 	<ul style="list-style-type: none"> 一部凹凸あり（建物角が6つまで） 	<ul style="list-style-type: none"> 矩形（四角）の総二階か平屋（建物角が4つ）
3	上下階のずれ ※平・立面図で判断	<ul style="list-style-type: none"> 1階と2階の外周壁位置がずれている（2面以上） 2階の外周壁位置の直下に開口がある、かつ構造計算なし 	<ul style="list-style-type: none"> 上下階の外周壁位置がずれている（1面のみ） 	<ul style="list-style-type: none"> 上下階の外周壁線が一致（下屋部以外）
4	柱の直下率 ※平面図で判断 ※会社に問い合わせ	<ul style="list-style-type: none"> 2階の外周部角の下に壁や柱がない（1か所以上） 柱の直下率が全体で50%未満 	<ul style="list-style-type: none"> 2階の外周部角の直下に1階の壁や柱がある 柱の直下率が全体で60%以上確保 	<ul style="list-style-type: none"> 2階の構造区画の四隅下には1階の壁や柱がある 柱の（外周部除く）内部直下率で60%以上確保
5	吹き抜け ※平面図で判断	<ul style="list-style-type: none"> 吹き抜けあり（外周に面する長辺が2.73m超え） 不成立の吹き抜けあり（外周壁3面や平行して2面に面する） 複数の吹き抜けがお互いに近く、有効な床面が取れていない 	<ul style="list-style-type: none"> 吹き抜けあり（長辺が2.73m以内） 吹き抜けあり（外周壁に面するのは直交2面まで） 	<ul style="list-style-type: none"> 階段以外に大きな吹き抜けがない（もしくは平屋） 吹き抜けがある場合はB.を満たした上で必要な床構面を確保
6	壁の配置バランス ※平面図で判断 ※各階で判断	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの外周壁線上で長さの1/4以上の有効な耐力壁量がない 外周壁線上で90cm幅以上の耐力壁がない面がある 建物角でどちらの面にも90cm幅の耐力壁がない箇所あり 	<ul style="list-style-type: none"> 外周部角のどちらかの方向には90cm幅以上の耐力壁あり 各階の偏心率が0.15~0.3以内 	<ul style="list-style-type: none"> 外周部角は両方向共に90cm幅以上の耐力壁あり 各階の偏心率が0.15以内
7	耐力壁の仕様 ※会社に問い合わせ	<ul style="list-style-type: none"> 耐力壁は面材仕様なし（筋かいのみ） 	<ul style="list-style-type: none"> 耐力壁は面材仕様を基本とする（一部筋かいと併用あり） 	<ul style="list-style-type: none"> 耐力壁はすべて面材仕様である
8	屋根の構造検討 ※会社に問い合わせ	<ul style="list-style-type: none"> 構造検討に屋根瓦の仕様（軽量瓦、厚瓦）を反映していない 構造検討に太陽光パネルの有無を反映していない 	<ul style="list-style-type: none"> 屋根瓦の仕様や太陽光パネル有無を耐力壁量に反映 太陽光パネル設置位置を偏心検討に反映 	<ul style="list-style-type: none"> 太陽光パネルの有無と位置による荷重を構造計算に反映 同上は将来設置・将来撤去の場合を含んだ複数計算も含む
9	基礎 ※会社に問い合わせ	<ul style="list-style-type: none"> 床下の基礎部人通口の下に地中梁なし（補強もなし） 床下の基礎部人通口の下に地中梁なし（軽微な補強のみ） 建物の構造区画の直下に基礎梁の区画がない 	<ul style="list-style-type: none"> 床下の基礎部人通口の下には連続した地中梁がある 建物の構造区画の直下には基礎梁が連続して閉じた区画がある 	
10	地盤と建物の関係 ※会社に問い合わせ	<ul style="list-style-type: none"> 建物配置による地盤調査の実施なし 地盤調査結果による地盤補強検討に建物荷重を考慮しない 	<ul style="list-style-type: none"> 上部建物荷重を計算の上で地盤補強方法の検討、決定とする 上部建物荷重を計算の上で基礎設計（基礎断面の決定）とする 	<ul style="list-style-type: none"> 地盤調査時に「地盤の揺れやすさ」評価の導入 <p>※B.を満たした上で</p>

※許容応力度計算（きょうおうりょくどけいさん）：「構造計算」とは、正確にはこの計算方法のことを示します

※許容応力度計算の確認方法：計算結果はA4サイズで数百ページの束ねられたものになります